

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	受取手形	250,000	売上	400,000
	売掛金	158,000	当座預金	8,000
2	建物	5,100,000	未払金	5,000,000
			当座預金	100,000
3	仮受金	300,000	売掛金	200,000
			前受金	100,000
4	貸倒引当金	250,000	売掛金	300,000
	貸倒損失	50,000		
5	未収入金	2,510,000	有価証券	2,515,000
	有価証券売却損	5,000		

・解説

1. 売上取引に関する問題です。

このような問題は【約束手形に関する取引】【掛け売上に関する取引】【発送運賃に関する取引】の3つに分けて考えましょう。

【約束手形に関する取引】

問題文に「代金のうち ¥ 250,000 については、村上商店振出・小笠原商店宛の約束手形を裏書譲渡され」とあるので、250,000 円については受取手形勘定で処理します。

★解答①

(借) 受取手形 250,000 / (貸) 売上 250,000

【掛け売上に関する取引】

これは簡単です。普通に掛け売上をした時の仕訳を切るだけです。

★解答②

(借) 売掛金 150,000 / (貸) 売上 150,000

【発送運賃に関する取引】

問題文の「小笠原商店負担の～小切手を振り出して立替払いした」から、当該発送運賃が先方負担であることが分かりますが、この場合の処理方法は以下の2つが考えられます。

- ・売上債権である売掛金勘定に含めて処理する方法
- ・立替金勘定を使って売上債権である売掛金とは別にして処理する方法

本問は、問題で与えられている勘定科目の中に立替金勘定がない（売掛金勘定はある）ので、**売掛金勘定に含めて処理する**と判断します。

★解答③

(借) 売掛金 8,000 / (貸) 当座預金 8,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

2. 固定資産の購入に関する問題です。

建物や車両、備品、土地などの固定資産を購入したさいに、不可避免的に発生した費用（付随費用）は**購入原価に含めて処理**します。本問の「**仲介手数料 ￥100,000**」も、購入原価に含めて処理しましょう。

購入原価＝購入代価 5,000,000 円＋付随費用 100,000 円＝5,100,000 円

なお、商品売買取引以外で発生した未払債務 5,000,000 円は、**未払金**で処理します。うっかり買掛金で処理しないように気をつけてください。

■商品売買取引に伴い発生した未収債権・未払債務 → 売掛金・買掛金

■商品売買取引以外で発生した未収債権・未払債務 → 未収入金・未払金

固定資産の購入に関する問題は、第 100 回の問 5や第 101 回の問 4、第 106 回の問 1、第 109 回の問 3、第 113 回の問 3、第 118 回の問 2、第 123 回の問 3、第 128 回の問 5、第 129 回の問 2、第 132 回の問 3、第 139 回の問 2、第 143 回の問 4、第 145 回の問 4、第 148 回の問 4、第 150 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 仮受金・前受金に関する問題です。

仮受金は、入金の実態があるものの相手勘定や入金された理由などが不明な場合に、一時的に計上する勘定科目です。

本問は、問題文の「**得意先より ￥300,000 が当座預金口座に振り込まれたが、その内容が不明であったため仮受金として処理していた**」から、以前に以下のような仕訳を切ったことが分かります。

☆既に切られている仕訳

(借) 当座預金 300,000 / (貸) 仮受金 300,000

そして今回の調査の結果、「**その内訳が売掛金の回収額 ￥200,000 と、注文を受けた商品 ￥400,000 に対する内金 ￥100,000**」であることが判明したので、200,000 円の仮受金を売掛金と相殺し、100,000 円の仮受金を前受金に振り替えます。

★200,000 円の仮受金を売掛金と相殺する仕訳

(借) 仮受金 200,000 / (貸) 売掛金 200,000

★100,000 円の仮受金を前受金に振り替える仕訳

(借) 仮受金 100,000 / (貸) 前受金 100,000

■ 仮受金と前受金の違いについて

- ・ 仮受金…**内容が不明**のお金を受け取った場合に仮に計上する勘定
- ・ 前受金…**商品売買に先立って**お金を受け取った場合に計上する勘定

仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。なお、商品売買に先立って受け取るお金には「内金」と「手付金」の2種類がありますが、受験簿記では両者を区別して押さえる必要はありません。どちらも受け取ったら前受金勘定で処理します。

仮受金と前受金に関する問題は、第101回の間1や第109回の間5、第112回の間3、第125回の間3、第127回の間4、第132回の間5、第137回の間5などでも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 債権の貸倒れに関する問題です。

債権の貸倒れは債権の発生時期によって処理が異なるので、まずはいつ発生したのかを確認しましょう。

■ 前期以前に発生した債権が貸倒れた場合

前期以前に発生した債権は、前期末の決算を通過しているため貸倒引当金が設定されています。よって、この債権が貸倒れた場合は、まず貸倒引当金を取り崩し、それでも足りない場合は貸倒損失で処理します。

☆参考・前期以前に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳1

(借) 貸倒引当金 ××× / (貸) 売掛金 ×××

☆参考・前期以前に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳2

(借) 貸倒引当金 ××× / (貸) 売掛金 ×××

(借) 貸倒損失 ×××

■ 当期中に発生した債権が貸倒れた場合

当期中に発生した債権は、前期末の決算を通過していないため貸倒引当金が設定されていません。よって、この債権が貸倒れた場合は、全額を貸倒損失で処理します。

なお、問題によっては貸倒引当金の金額が与えられる場合がありますが、それはダミーデータです。うっかり取り崩して処理しないように気をつけましょう。

☆参考・当期中に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳2

(借) 貸倒損失 ××× / (貸) 売掛金 ×××

■ 本問はどっち？

問題文の「**前期に生じた売掛金 300,000 が得意先の倒産により回収できなくなった**」から、**前期に発生した債権**が貸倒れたことが分かります。

よって、貸倒れた売掛金 300,000 円のうち 250,000 円については貸倒引当金を取り崩し、残りの 50,000 円については貸倒損失で処理します。

債権の貸倒れに関する問題は、第101回の間2や第109回の間1、第120回の間5、第128回の間2、第139回の間5、第144回の間4、第146回の間4、第149回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 有価証券の売却・未収入金に関する問題です。

帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しますが、購入時に手数料 30,000 円が発生しているので、購入原価は**購入代価＋手数料**で計算しましょう。

・購入代価：10,000 株×@500 円＝5,000,000 円

・手数料（付随費用）：30,000 円

・購入原価：5,000,000 円＋30,000 円＝5,030,000 円

・購入単価：5,030,000 円÷10,000 株＝@503 円

・帳簿価額：@503 円×5,000 株＝2,515,000 円

・売却価額：@502 円×5,000 株＝2,510,000 円

・貸借差額：2,515,000 円－2,510,000 円＝5,000 円（帳簿価額＞売却価額→売却損）

なお、売却代金はまだ受け取っていないので、未収入金で処理します。

有価証券の売却に関する問題は、第 102 回の問 5や第 110 回の問 1、第 118 回の問 1、第 123 回の問 4、第 126 回の問 4、第 131 回の問 1、第 142 回の問 4、第 147 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。